

な か ま

発行
 佐倉市立中央公民館
 編集
 なかま編集委員会
 〒285-0025
 佐倉市鐺木町 198-3
 電話 (043)485-1801

メジロと家賃 ----- 渡 邊 和 男 路傍のコクリコ----- 村 田 長 保
 紋白蝶と網目キャベツ----- 川 口 恭 一 窓辺の恋人と会える喜び----- 吉 田 順 一

国立佐倉療養所

金井義彰

京成の下りに乗って電車が鹿島川を渡り佐倉駅に近づくと、右手の小高い丘に歴博の大きな建物がみえてきます。歴博のあるところが昔の佐倉城跡、いまの城址公園です。

入院中の叔父を家族で見舞ったことがありました。丁度、夕食を終えた時刻でしたが、大部屋の病室で歓談している傷病兵の人たちの姿が今でも思い出されます。

明治六年に城跡に陸軍の営所が置かれると佐倉は一躍、軍都となり歩兵第二聯隊から第五十七聯隊の駐屯地となりますが、聯隊の付属病院についてはあまり知られていなかったと思います。昭和三年に画家の松井天山が当時の佐倉町の鳥瞰図を画いています。が、病院までは描いていません。

この陸軍病院は戦後、国立の病院になりました。名称をいろいろかえていますが、私が入院した昭和四十年代半ばには国立佐倉療養所といっていました。歴博の食堂まえの広場から佐倉城の一の門跡にかけていった区域にあります。が、城址公園の正面入り口の坂を上がってくると、左手に軍隊の名残を留める聯隊の兵舎がひとつ廃屋となって残っていた頃です。

付属病院は、佐倉営所病院から衛戍病院、陸軍病院等と名称をかえています。日中戦争が始まった昭和十二年、五十七聯隊の留守隊をもとに編成された百五十七聯隊で出征し、上海上陸作戦で負傷し

療養所の門を入ると正面が玄関、玄関に向かって右側に外来の診察室、奥のほうに外科病棟、私が入っていた内科病棟は玄関のすぐ左側の渡り廊下をいった先にありました。廊下の途中に軍隊時代を偲ばせる小さな面会室や病棟の裏側の空き地にコンクリート製の高い煙突があつたのを覚えています。病室が並ぶ外側は空き地になっていて、少し先の樹木が生い茂っているところに佐倉城の空堀が底を覗かせていました。

陸軍病院をそのまま引き継いだような病室は木造でかなり古くなっていましたが、市街の騒音から隔てられた閑静な環境は病氣療養に好適でした。病気が快方に向かい天気の良い日は城跡を散歩してまわりましたが、初代佐倉城主の土井利勝が植えたという「夫婦モッコク」を目にしたのも初めてでした。

歴博建設で療養所は江原台に移転し国立佐倉病院と名称をかえましたが、その後、国立病院の統合で腎疾患の高度専門医療施設となり、さらに民間に委譲されて現在の聖隷佐倉市民病院になりました。

(編集委員)

メジロと家賃

東京から佐倉を訪れた人が「佐倉は空が広い」と言われたとか。五月半ばの朝、兩戸を引くとメジロの影があった。

嘴に小枝を銜えている、「巢だ！」と思った。急いで庭へ回ると夏椿の枝に巢はあった。葉陰を映した乳白色の大振りの椀の底が窺えた。

メジロは、緑色で眼の周りが白い位のことしか知らなかったが、俄探鳥家になった。抱卵を始めていたメジロは鳴き声を立てなかつたから、私も随分気を使った。

巢を出入りするペアの動きが又凄く、餌を採ってきたA男がよく繁り出した葉の隙間から矢の様に戻るとB子の方はもう巢の上で待ち構えていてリレーのバトンタッチ宛らに飛出して行くスピードには啞然とさせられた。

やがて六月、入梅を迎えた或る日、見上げる巢に三羽の

子の嘴が見えた。無事誕生を果した様だが、相変わらず沈黙を守っていた。でも後日、家内が脚立を出して撮影した時は、さすがに二羽の親鳥は電線にとまって頻りに鳴いたそう。

そして迎えた運命の六月十二日、昼食後居間で寛いでいたら、突然けたたましい鳴き声が聞こえてきた。「すわ、一大事」と庭に飛び出すと、以外にも雀が二羽、巢の辺りで怪し気な素振り。「うん？」雀が逃げ去った後、肝心の巢の様子を窺うと、どうも気配がない。いつもあった小さな頭も見えない。慌てて脚立に乗って巢を覗くと、なんと「蛇の殻」とはこのこと。少し疲れの色を見せ始めた「空き巣」だけが残った庭で、傍らの妻に語り掛けた。「家賃は取り損ねたが、随分と楽しませて貰ったねえ」。

(王子台 渡邊和男)

路傍のコクリコ

道端に咲くケシを初めて手折り、花瓶に挿してみた。ケシは一般に蕾の間は下を向き、開花すると上を向くという性質がある。

慥かにその通りであるが、手元で蕾から全開へのプロセスを見て、意外なことが判明した。

まず、咲きほころび出す頃には既に上を向いているのかと思つたが、実は違う。ほぼ下向きの俣、朱い花弁を見せ始め、徐々に上を向き乍ら、徐々に開いていくのだ。その速度は時計の短針と同じ位といて良いだろう。即ち一時間三十度のゆつくりした角度で首をもち上げてゆく。花弁もほぼその速度で開いてゆく。地面と平行、つまり九十度横向きまで三時間、花弁もその頃五分咲きだ。

とはいえ、実際道端でもこ

の通りのペースなのか、断定はできない。あくまで花瓶の中、加之、ガラス越しの乏しい太陽の下での観察である。慥かに路傍では、横向きに半開きとはいえ、咲いているケシは見たことが無い様に思う。恐らく直立する迄の時間がもつとずつと早いのではないが、それにしても日本のこの朱色、というよりオレンジ色に近いケシ、この数年で急に増えた気がする。ヨーロッパで見たあの真つ赤なコクリコ、鶏のトサカのようなケシと同種なのであろうか。同じ種なのに、日本にやってくるとジャイアント・カラーになつてしまふ？

人の世を何を傾き語るらん
ケシという名の運命を梃子に

(新白井田 村田長保)



紋白蝶と網目キャベツ

近所に住む小学三年の孫から学校の理科の学習に使うという「青虫」の採集依頼。勉強やサッカーで忙しい孫に代わって自家菜園のエンドウ摘みのついでに青虫探し。ところが、青虫はおるかキャベツさえも見あたらない。皆さん白い防虫ネット（寒冷紗）のトンネルの中で栽培中なのである。

去年は防虫ネットをかけず、青虫の大被害発生。キャベツやブロッコリー苗の植え付け時から、紋白蝶がひらひらと舞いながら卵を産み付けていく。追い払っても、追い払っても。モンシロチョウの種族保存本能の強さと隣の白菜苗には産み付けようとしない生まれ来る幼虫のための植物選別能力に驚かされる。

やがて苗は四枚の葉が出そろい次の葉が芯にのぞいている。順調に生育し葉の枚数が

増えていくが、青虫が蛹になるまで食害が続き、ついに網目キャベツに。その後は結球したものの成長が遅れ、小振りのキャベツになってしまった。

若い葉を網目にしてしまうほどの食欲であるが、成長していくべき芯の幼芽は残している。キャベツの芯芽に何らかの食害防御物質があるのか、青虫の側に食料を食い尽くさない本能が備わっているのか、自然の仕組みはよくできているものである。

探し回って、何とか必要な「青虫」を確保し、手渡すことができた。今年入学した弟の方が三年生になるときは、防虫ネットを使わないでキャベツを栽培しておこう。

（中志津 川口恭一）



窓辺の恋人と

会える喜び

この夏も省エネの目的から東側の窓辺に緑のカーテンを設ける季節を迎えました。特に今年は節電することで、東日本大震災の復興のお手伝いが出て来ると、力が入っております。緑のカーテンにもゴーヤ、ヘチマ、フーセンカヅラ等から選ぶのですが、私の場合は朝顔になります。

奈良時代に薬草として中国から渡って来た朝顔の花は、奥が深く美しさはすばらしいものです。私は3、4年前から「変化朝顔」に魅せられて、その変化したすばらしい花を求めて夢中になっているのです。

まず、5月初旬に芽切りした種子4〜5種類を蒔きます。6日程すると発芽し、本葉が出たら小鉢へ、そしてプランターに移植し、その後所定の位置にネット等を張り、成長を待ちます。

朝顔のすばらしさは、薬草

なので害虫がまったく寄らず、窓を開け放って、涼を求めることが出来ます。美しさについては、葉もすばらしいのです。毎朝夜明けと共に静かに窓を開け放して、朝日を浴びた葉を逆光で裏を透かして見ると、色は黄葉、緑葉など様々で、形も大きさもいろいろあり、それはすばらしく天使の集いの様に見えてきます。又、そよ風の日は、風に揺られて、皆で肩を組みながら合唱している様です。そして、小雨降る日は、しつとりと濡れて、怪しく美しくしずくを零こぼしております。

特に、花が終わり、実を結ぶ頃を迎えると、もうすぐ別離の季節が来ているのかと、寂しく思いながら、来年会える事を楽しみにサヨナラします。

朝顔の葉はその時々、いろいろな姿を見せて、話しかけてくれる様です。

（山王 吉田順一）

8月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等の修正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

さくら道

6月の半ばすぎ、私たち市民カレッジ18期生の環境美化グルーブは、いつもの通り佐倉城址公園で、案内看板の清掃、ゴミ拾い、草刈り等を行った。この日はタイミング良く、菖蒲園の菖蒲が綺麗に咲いていたので、私たちは花を眺めながら昼食を摂った。

私は誰にももなく、「アヤメと菖蒲は同じ様な感じだけど、どこが違うの」と問った。するとK

さんが、「花弁が分かり易いよ。

元のところは、網目状の模様が あるのがアヤメで、黄色い目型の模様になっているのが菖蒲だよ」と教えてくれた。私は半信半疑であったので、後で調べて見ると、Kさんの言う通りであった。流石はKさんです。疑ってご免なさい。

帰りは、愛宕神社で無病息災を祈願し、寄り道をして家路についた。

（鵜木聖次）

あとがき

3月11日の大震災から早5ヶ月が経過しようとしています。大震災に続いて発生した巨津波と原発事故の為、実に様々なことが起きました。被災者の長期避難生活、放射能汚染、風評被害、計画停電、電力会社や政府の不手際、国民不在の政争等々…。全て良くないことばかりです。

しかし、大震災を契機に、日

本人の心の中に良い変化も幾つが出てきたように感じます。

誰かのために何かをしてあげたいという気持ちの高まり、節電意識の急速な高まり等です。

豊かさだけを求めて直走ってきた過去から、安心安全を優先する社会、喜びや悲しみを共有できる社会への変化を感じます。変化を現実のものとするためにも、まずは原発事故の早期解決を願いたいものです。

（坂本初男）